

# D-18 流し台の蛇口に關する人間工学的研究

—水はねと使い勝手から見た至適位置について—

奈良女大家政 ○大隈弘子 梁瀬廣子 ノートルダム女大 花園利昌

目的 流しの蛇口の位置は、流し台全体の使い勝手に密接な関連を持っているにもかかわらず、実際の住宅での位置は、明確な基準のないままに工事の都合でとりつけられている場合が多い。そこで蛇口位置と強く関係すると思われる水はねと、人体の動作や感覚を重視する人間工学的な立場から蛇口の至適位置を求めめるために実験を行なった。

方法 まず蛇口の奥行きを流し台前面の外縁から32 cmに固定し、高さを流し台上縁から上5 cm、10 cm、15 cm、20 cm、25 cmの5段階に変化させ、次に高さを流し台上縁から上20 cmに固定し、奥行きを流し台前面の外縁から22 cm、27 cm、32 cm、37 cmの4段階に変化させて5名の被験者に食器洗い作業を行なわせた。作業中、被験者の右側方から写真撮影して作業位置、作業姿勢を分析し、作業後、水はねや使い勝手に関する13項目のアンケート調査を行った。水はねの測定は、バックガード側の壁面と流し台前面の床については水はね分布を調べ、ワークトップについては水はね量及びその分布を調べた。また実際の台所の蛇口の位置についての調査を行ない資料を得て、実験条件の設定及び結果の考察に利用した。

結果 ①水はねは蛇口高さが流し台上縁から上20 cmより低く、奥行きが流し台前面の外縁から27 cm位の位置では少ない。アンケート結果からは、高さが上15 cm、奥行き27 cm、作業姿勢からは高さが上15~20 cm、奥行き22 cmが適当である。よって蛇口の至適位置は、高さが流し台上縁から上15~18 cm位、奥行きが流し台前面の外縁から27 cm位である。  
②ワークトップの水はね量は、実際の物理的な蛇口高さよりも感覚的な蛇口高さとの相関関係が深い。つまり、水はね量が多くなる所で蛇口高さを高いと感じている。